

## 舞鶴市保小連携プログラム策定事業

舞鶴市保小連携プログラム策定事業は、平成23年度に国のモデル事業「発達障害者等支援都市システム事業」の一環として誕生しました。

### ■目的

就学を見据えたカリキュラムの構築や、異年齢児との関わりを持つ機会を設定することで、子ども達の発達と学びの促進を図るとともに、保育所と小学校の連携を強めることにより、障害や発達障害のある子どもも含め、移行期の円滑な接続を図る。

### ■本市の現状

平成20年度の保育指針改定により、保育所保育要録の作成と小学校への送付が義務付けられたことを受け、平成21年度から保育要録の送付を行ってきたところである。しかし、保育要録の送付のみでは保育所での子どもの育ちを十分に引き継ぐことはできない状況であった。

### ■事業提案—保小連携プログラム策定事業

保育所での子ども達の育ちをスムーズに引き継ぐには、小学校教諭が保育所での子どもの姿を直接見る機会を設定することが最も効果的だと考え、保小連携プログラム策定事業に取り組むこととした。

発達障害者等支援都市システム事業報告書より(抜粋)

事業の参加者からは、「小学校教諭が保育所での育ちを知ることにより、子ども達が抵抗なく受け入れられる指導方法を考察することができた。」(小学校教諭)、「保小連携を行うことは、子ども達の絆が深まるだけでなく、お互いの成長や学びを共有でき、保育所から小学校へのギャップを減らすことに繋がる。」(保育士)という声がありました。

一定の成果を得ながらも、保小連携を持続可能な取り組みとして実施するためには、保育所・小学校がお互いに負担感の少ないものにする必要があるなど、課題も認識しました。

その方策の一つとして、先の報告書では小学校の『生活科』を活用した連携の実施を提案しています。保育所・小学校の共通点を多く持つ生活科を題材とすることにより、「子ども達は自然な活動を行うことができる。」「余分な授業時間を設定する必要がない」「既存の科目を活用するので、準備に割く時間を減らすことができる」などの利点をあげています。

これらの報告を受け、始まった平成24年度の保小連携プログラム策定事業では、舞鶴市小学校教育研究会生活科部と合同で、保幼小連携研修会を開催し、『生活科』を題材とした保小連携事業公開保育・授業も協力して実施することができました。

また、講師の鳴門教育大学大学院教授 木下光二先生のご指導を受ける中で、遊びの中での体験が小学校の教科学習につながっていくこと、「夢中になって遊びこむ」ことが学びの基礎として重要であることなどを知り、参加した保育士などから、保小の「なめらかな接続」のためにも、子ども達の体験を磨けるような「保育の質の向上」が大切との声があがり、保小連携だけでなく日々の保育の質向上についても研修していくことになりました。

～水・砂・風・土・泥・葉に夢中になる力が、教科の学習に夢中になる力とつながっている～

今年度開催した研修会の中で木下教授が話された言葉です。「保育園・幼稚園から小学校へつなげてほしいことは『夢中になって遊びこめる力』である。」と聞き、乳幼児期を育む保育所の役割の大きさをさらに認識したところです。

保小連携事業も保育の質の向上研修もまだ始まったばかりであり、課題も多いところではありますが、1年を通して見てきた子ども達がたくましく育っていく姿や、これまで見たことのない子どもの姿に感動する保育士や小学校教諭の姿を目の当たりにし、引き続き研修の機会を提供していきたいと考えております。

平成24年度 保小連携プログラム策定事業モデル園

モデル園	連携小学校(予定含む)
八雲保育園	由良川小学校
岡田保育園	岡田小学校
タンポポハウス	志楽小学校
東山保育園	余内小学校
中保育所(公立)	中舞鶴小学校
東保育所(公立)	新舞鶴小学校
昭光保育園	
やまもも保育園	
平保育園	大浦小学校
さくら保育園	倉梯小学校(予定)

※モデル園以外においても連携の取り組みが進められています。